

岩見沢市新病院建設基本計画 素案からの修正箇所 新旧対照表

項目	素案	修正
概要版	岩見沢市新病院建設基本計画 <u>(素案)</u> 【概要版】	岩見沢市新病院建設基本計画 【概要版】
表紙・裏表紙	岩見沢市新病院建設 <u>基本計画 (素案)</u> 令和4年 <u>8月</u>	岩見沢市新病院 <u>建設基本計画</u> 令和4年 <u>9月</u>
P3 第1章 基本計画策定の考え方 3.新病院の重点医療機能(病院像)	<p>②回復期医療の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 救急や手術後の早期リハビリテーション体制の充実を図ります。 <p>⑥地域医療連携の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <u>市内</u>医療機関との連携の強化による機能分化を推進します。 	<p>①急性期医療の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 救急や <u>入院</u>、手術後 <u>から</u>の早期リハビリテーション体制の充実を図ります。 <p>⑥地域医療連携の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <u>近隣</u>の医療機関との連携強化による機能分化を推進します。
P8 第1章 基本計画策定の考え方 4.新病院の診療機能・施設規模	(4) 病床数の設定 ②新病院の病床数の設定(表) 現状(令和4年 <u>8月</u> 時点)	(4) 病床数の設定 ②新病院の病床数の設定(表) 現状(令和4年 <u>9月</u> 時点)
P18 第2章 施設設備計画 5.設備計画	(3) 給排水設備 (追加)	(3) 給排水設備 <u>透析排水や放射性同位元素(RI)排水などの病院特有の排水を適切に処理する設備を設けます。</u>
P21 第3章 関連施設の方向性 1.現病院施設及び跡地利活用検討	平成17(2005)年に完成した新棟については、新病院開院予定の令和10(2028)年度においても建物の耐用年数が <u>19年</u> 残存していることから利活用を検討しますが、昭和57(1982)年建設で老朽化したエネルギー棟の <u>新改築</u> など、インフラ設備の更新もあわせて検討が必要になります。	平成17(2005)年に完成した新棟については、新病院開院予定の令和10(2028)年度においても建物の耐用年数が <u>17年</u> 残存していることから利活用を検討しますが、昭和57(1982)年建設で老朽化したエネルギー棟の <u>新築</u> など、インフラ設備の更新もあわせて検討が必要になります。
P36 第4章 部門別基本計画 5.病棟部門	<p>➢整備上の留意点は、以下のとおりとします。</p> <ul style="list-style-type: none"> 全病棟の共通事項として、スタッフステーションは病棟全体が見渡せるオープンな設えとし、多職種が病棟業務を行うチーム医療の推進を考慮した空間・設えとします。また、入院患者のベッド搬送に考慮したつくりと <u>します</u>。 	<p>➢整備上の留意点は、以下のとおりとします。</p> <ul style="list-style-type: none"> 全病棟の共通事項として、スタッフステーションは病棟全体が見渡せるオープンな設えとし、多職種が病棟業務を行うチーム医療の推進を考慮した空間・設えとします。また、入院患者のベッド搬送に考慮したつくりと <u>するほか、病棟内でのリハビリテーション環境を整備します。</u>
P46 第4章 部門別基本計画 11.臨床検査・病理診断部門	<p>(5) 機能連携図</p>	<p>(5) 機能連携図</p>

岩見沢市新病院建設基本計画 素案からの修正箇所 新旧対照表

項目	素案	修正
P49 第4章 部門別基本計画 13.臨床工学・ME機器管理部門	(2) 基本機能 >技術支援業務 手術部門、HCU、血液浄化センター、心臓カテーテル(血管撮影)、内視鏡、高気圧酸素療法(HBO)などにおける医療機器の操作 (3) 整備方針 >高気圧酸素療法室 ・空気で加圧できる配管を整備します。	(2) 基本機能 >技術支援業務 手術部門、HCU、血液浄化センター、心臓カテーテル・ペースメーカー補助、内視鏡補助、高気圧酸素療法(HBO)などにおける医療機器の操作・保守・点検 (3) 整備方針 >高気圧酸素療法室 ・空気で加圧できる配管の整備を検討します。
P51～52 第5章 部門別基本計画 14.リハビリテーション部門	(3) 整備方針 >理学療法、作業療法、日常生活動作訓練エリア、心臓リハビリエリア、小児リハビリエリア、物理療法エリアなどをワンフロア型で整備し、全体が見渡せるように配慮したレイアウトとします。 >リハビリテーション室は、大型機器を設置するための十分な広さや天井補強、酸素・吸引設備を整備するとともに、心大血管疾患リハビリテーションの実施にも対応できる広さ(30㎡以上)を確保します。 >屋外での日常生活動作訓練のため、屋外歩行コースを検討します。	(3) 整備方針 >理学療法、作業療法、日常生活動作練習エリア、心臓リハビリエリア、小児リハビリエリア、物理療法エリアなどをワンフロア型で整備し、全体が見渡せるように配慮したレイアウトとします。 >リハビリテーション室は、大型機器を設置するための十分な広さや天井補強、酸素・吸引設備を整備するとともに、心大血管疾患リハビリテーションの実施にも対応できる広さを確保します。 >屋外での日常生活動作練習のため、屋外歩行コースを検討します。
P76 第6章 設計・施工の発注手法 (目次及び概要版も同様)	第6章 設計・施工の発注手法	第6章 整備手法とスケジュール
P80 第7章 事業収支計画 2.事業収支シミュレーション		<p style="color: red; text-align: right;">※右軸数値の位置修正</p>